

研究所レポート

2019年1月 VOL.55

シティズンシップ教育の視点で教育実践を!!

～ 未来を創る主役であり、担い手である市民を育てるために～



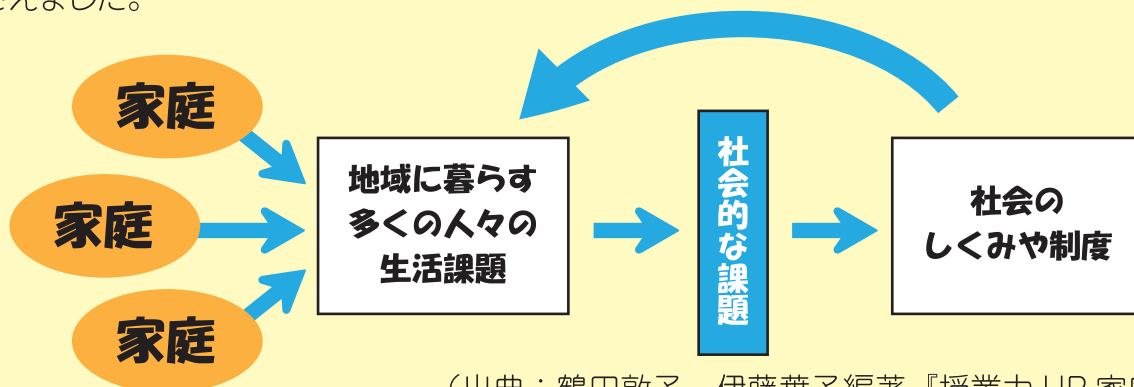
静岡県教職員組合立教育研究所
シティズンシップ教育研究委員会

今年度新設した、シティズンシップ教育研究委員会では、シティズンシップ教育を「国、社会の出来事や問題を自分のこととしてとらえ、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する能力や態度を育てる教育」と捉え、研究をすすめました。



研究所レポートでは、所員の実践の一つを紹介します。紹介する実践は、家庭科「栄養バランスのよい食事『被災地復興献立を考えよう』」です。この実践では、シティズンシップを育てる3つのポイントを

- ① 個々の私的な生活から、社会の大きな枠組みを見つめる
- ② 多くの人々に共通した生活課題は、社会で解決すべき問題であることに気づく
- ③ 社会にはたらきかける意欲や行動力を他者との共同的な学びのなかで実践的に身につけると押さえました。



(出典：鶴田敦子・伊藤葉子編著『授業力UP 家庭科の授業』)

実践事例 家庭科

実践の概要

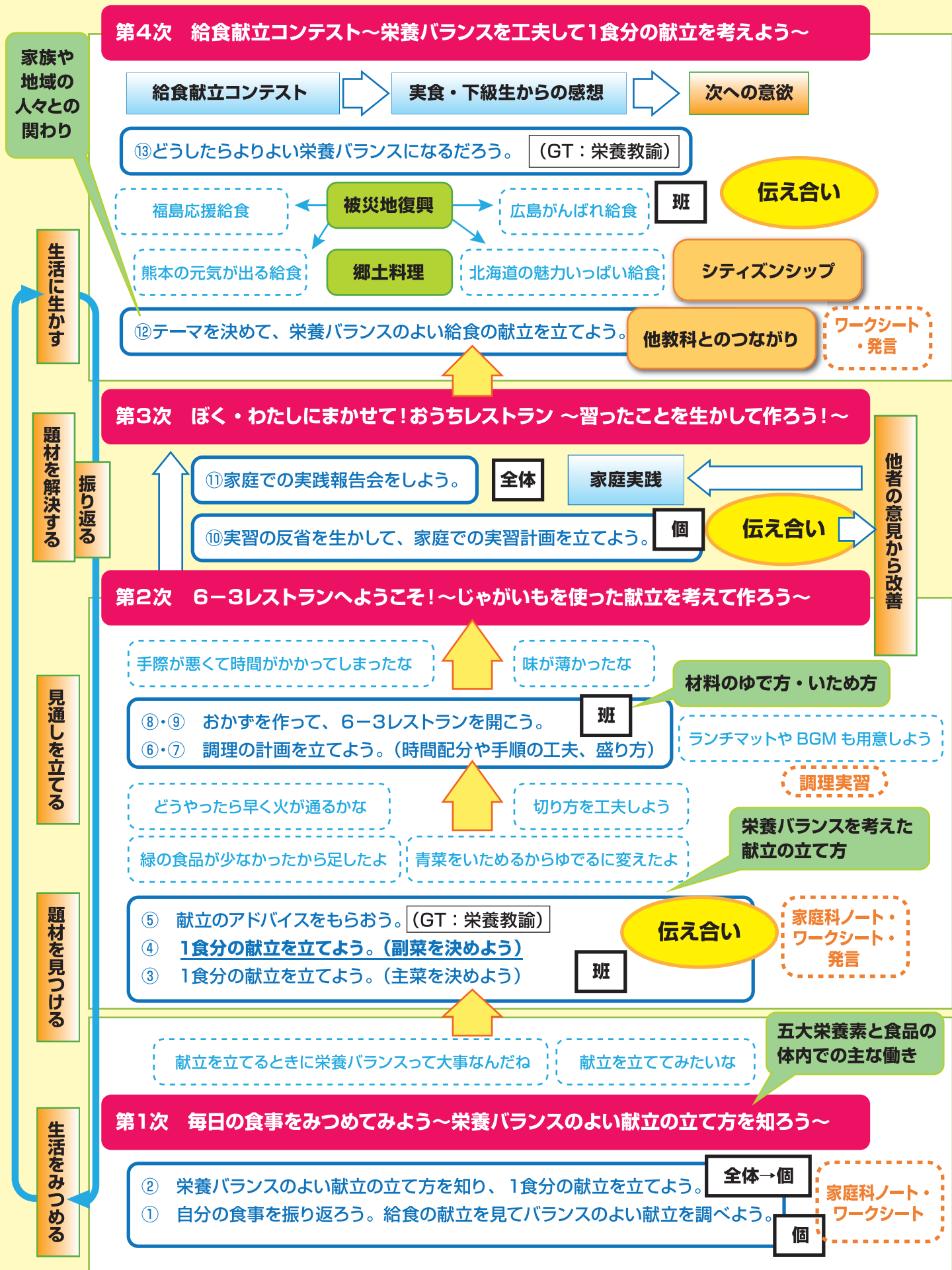
- 1 題材名 栄養バランスのよい食事 「被災地復興献立を考えよう」
- 2 学級 第6学年3組 女子13人 男子16人 計29人
- 3 題材の目標 栄養のバランスを中心にテーマに沿った給食の献立を考える。
- 4 題材について

子どもたちは、毎日当たり前のように決められた献立の給食を食べている。「給食の献立」という身近な題材を、子どもたち自身が、「こんな給食があったらうれしいな」「こういう配慮があるといいな」と自分から関わってよりよくしようとする姿は、シティズンシップ教育のめざすところである。今回は、「被災地復興」というテーマを設けて、被災した人たちを応援するメニューを考案した。班で応援する県を決め、各々が郷土料理やその土地の特産物をインターネットで検索し、献立提案シートを作成した。持ち寄った提案シートを元に班で話し合い、栄養バランスのよい一食分の献立を考えていく。給食を食べる人への思いや配慮を通して、他者との共同的な学びのなかで社会に働きかけていく意欲を育む第一歩となるよう題材を構成した。

生活の課題発見	解決方法の検討と計画	課題活動に向けた実践活動	実践活動の評価・改善	家庭・地域での実践
自分の食事から問題意識をもつ。	栄養バランスのよい食事になるよう献立の工夫を考える。	調理計画を立て、じゃがいもを使ったおかずを作る。	実践を振り返り、他者の意見を踏まえて改善方法を考える。	

4 題材構想図・指導計画 (全13時間)

目標：栄養のバランスを中心に1食分の献立を考えることができる。[B(2)ア(エ)(3)イ]



家族や地域の人々との関わり

生活に生かす

題材を解決する
振り返る

見通しを立てる

題材を見つける

生活をみつめる

5 実際の指導

(1) ねらい

応援する県のテーマにあった郷土料理や食材を調べて、提案カードを持ち寄った子どもたちが、テーマに沿った食材や料理を話し合い、班で栄養バランスの良い献立を決定していく活動を通して、他者の意見を取り入れながら、社会に働きかけていく意欲をもつことができる。

(2) 授業の様子

- 1：○持ち寄った**献立提案シート**を元に、自分の調べてきた献立を、班の友達に提案する。
○テーマに合った料理はどれか、理由を述べ合いながら検討する。(WS 資料)
○班で献立の**図やアピールポイント、工夫した点**を記入する。
- 2：○献立を栄養教諭に見てもらい、アドバイスをもらう。
○献立を練り直し、再度決定する。
○工夫点を発表し、共有する。

研究協議より



授業実践者より

- ・ どんな人に食べてもらいたいという相手意識をもつことで、より献立のイメージが具体的なものとなった。どの班も話し合いが途切れることなく、活発に行われた。
- ・ 家庭科の授業においても、本研究所のシティズンシップ教育の視点に沿って実践することができることを実感した。
- ・ 子どもたちの中に、自分たちの声で既存のものを変えていけるという自信の芽が出てきた。



所員より

- ・ 給食のメニュー作りに対して、子どもたち一人一人が自分事としてとらえ、主体的に授業に参加していることが伝わってきた。欲をいえば、テーマ自体も子どもたちが考えたものであれば、なお主体性が強まったのではないかと思う。
- ・ 今回の実践が「課題を自分のこととしてとらえ、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する能力や態度を育てる」ことができる授業提案の一つとなったのではないか。

シティズンシップ教育研究委員会 (2018年度)

共同研究者

井柳 美紀
(静岡大学教授)

三浦 哲司
(名古屋市立大学准教授)

所 員

河本 章衣 (浜松教組)

水谷 光里 (田方支部)

横山 貴志 (三島支部)

永井 咲季 (駿東支部)

中村 佳子 (志太支部)

丹所明日香 (小笠支部)

寺田 祐基 (湖西支部)

事 務 局

大石 茂生

小野 佳貴

赤堀 真人

シティズンシップ教育の視点で教育実践を!!

～未来を創る主役であり、担い手である市民を育てるために～

編集・発行/静岡県教職員組合立教育研究所「シティズンシップ教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発 行 者/教育研究所運営委員長 鈴木伸昭

発 行 日/2019年1月

静岡県教育事業団体連絡会
教育と生活をサポート



一般財団法人 静岡県教職員互助組合



STC 静岡県教職員生活協同組合



STC 静岡県学校生活協同組合連合会



一般社団法人 静岡県出版文化会



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部



株式会社 静岡教育出版社